

日々の積み重ね 環境保全への取り組み



令和4年初日の出
(山口市美濃が浜
海浜公園)

新年あけましておめでとうございませう。八方原の環境を守る会会員ならびに八方原自治会の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。平素は当会の活動に格段のご理解、ご協力を賜り感謝に堪えません。

新型コロナウイルス感染症は、なかなか収まる様子はありません。ウイルスも生き延びるために様々な形に変化しているのです。専門家の意見ではこうしたウイルスを撲滅させることはできないとのことですが、このような状況に対応していく柔軟さが求められているのではないのでしょうか。

世界は環境保全から目を背け

することができない状況になってきました。私たちの活動は15年前に「環境の保全」を前面に押し立て、豊かで、多彩な農地の機能を活かしていく活動として始まりました。会員の皆様方には、様々な形で活動に参加いただき、結果的に環境保全の大きな成果を上げることができています。

日本の人口は年々減少を続けていますが、地球規模では全くその逆で、年々増加を続けています。今やその膨大な人口をこの地球の食糧生産を賄えないのではないという深刻な問題が表面化

寒さに負けず西側外周路の除草清掃

冬の寒い時期の共同作業として、農道の除草清掃を毎年行っています。今



「どこから取り掛かるか」決めてから場所に移動

年度は3回実施する予定です。12月19日、第1回目として農地の外周に当たる農道を清掃しました。この農道は1400メートル余りあり、移動だけでも簡単ではありません。今回は暮れの押し迫った時期にも関わらず21名のご参加を頂きました。除草清掃はどうしても人の力に頼るしかありません。雑草は、アスファルトの継ぎ目や、水路擁壁との隙間などにも入り込んで、簡単には取れません。全員が力を合わせた結果、予想以上の短時間で作業を終えることができました。

しています。「食糧の奪い合い」が現実になっていくことも事実です。そうした状況の中で、不測の事態にも対応できる農環境を保全することは非常に重要な問題となっています。今年も、引き続き様々な保全活動を行います。地球規模の大問題に立ち向かう覚悟で取り組んでいきたいと思っております。会員の方々には倍旧のご理解、ご協力をお願いいたします。令和四年 元旦

代表 中村 文二

おかげさま「八方原自治会の運営」の一年

謹んで新年のお祝詞を申し上げます。自治会会員各位におかれましては輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

令和2年から巻き起こった新型コロナウイルス感染症は沈静化と急拡大を繰り返して気の抜けない状況が続いています。

昨年4月に自治会長に就任して以来、数々の課題に取り組んでまいりました。長年の懸案であった公民館大

ホールの空調設備の設置について、多くの皆様のご意見やアドバイスを頂き実現させることができました。各種の行事や会議についても天候に左右されることなく開催できるようになったと思います。

また昨年8月14日の集中豪雨では、「農事組合法人八方原」様との連携で、被害を最小限にとどめることができました。またその後、防災会議を立ち上げ市の担当課と一緒に様々な協議を行

いました。

現在のところ、まだ何も着手できなかった状態ではありませんが、市担当課からは九田川水路の放流堰の設置が決まったこと、県の河川管理者からも榎野川本流の浚渫工事について新年度予算が確保できる見込みということが分かりました。関係する多くの方々のご支援の結果であると感謝しています。

また市道八方原森下線の防犯灯の設置の要望についても、市担当課と電気工事業者と協議を行い、可能な場所、4か所に設置する予定となりました。工事見積額は20万円程度ですが、市か

らの補助金が1灯あたり28,000

円となりますので、実際の負担は多くはありません。沿線にお住いの方々は市道になってからも真つ暗のままの状態を放置してきましたことをお詫び申し上げます。

今年度も残り3か月となっております。コロナウイルス感染症の情報をしっかりと見極めながら、自治会運営を進めて参ります。引き続きご協力よろしくお願ひします。

八方原自治会会長

原田 哲夫

いざという時の備え

12月5日、公民館での避難訓練が行われました。これは公的な施設に義務



付けられたものです。ここでは通報の訓練も行われます。緊急の時に正確に場所が伝えられるかどうかを試されます。

公民館から負傷者の救出訓練の後、消火訓練も行われました。模擬の消火器を使つての訓練ですが、こういう単純な作業も経験していないと、いざという時に、慌ててしまうかもしれません。

大事に使いましょう収集ボックス



今まで見たことのないような新しいボックス

1班の「燃やせるゴミ収集ボックス」が新たにになりました。

従来多い横長ではなく、背の高いスタイルです。扉も大きく開くので、袋

の投入も楽そうです。

この場所のボックスは随分傷んでしまつていたので、新調されました。大事に使いましょう。

ウソ電話詐欺にかからないために

山口南警察署管内では令和3年内に12件のウソ電話の通報があり、6件は実際の被害に遭われています。

警察関係者の話では「わしは大丈夫」「わたしや関係ない」という方が、最も危ないとのことでした。

ウソ電話詐欺の条件は「固定電話」と「高齢者」です。そこから携帯電話で相手をコントロールするようになります。

北海道のある町では、全戸に留守番電話機能を持った電話に置き換えてもらい、効果を上げています。留守電に切り替わると、詐欺グループは無駄だとして、諦めるようです。知り合いからの電話は録音が始まって、相手が誰かわかったら受話器を上げるということです。

最近では、若い人を狙って「ロマンス詐欺」というものもあるようです。南署の話では起訴できるのは全部ではない、家族や本人が「恥ずかしい」からと、泣き寝入りも少なくないとのこと。